

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

| | |
|------|-----|
| 学校番号 | 105 |
|------|-----|

自己評価

| | |
|------------------------|--|
| 学校教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向け、自ら学び自ら考え、生き生きと豊かに表現できる児童生徒を育成 ・自他を尊重し、学校や地域で生き生きと生活できる児童生徒の育成 ・運動に親しみ、心身ともに健康で、明るく元気な児童生徒の育成 |
| 評価する領域・分野 教育活動・学習活動 | <p>支援センター（※番号は学校評価のアンケート項目）</p> <p>3：学校は、保護者（地域）が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である。</p> <p>10：学校の先生は、個別の教育支援計画を児童生徒や保護者の意見を反映し、関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。</p> |
| 現状及びアンケートの結果分析等 | <p>3：あてはまる94%、あてはまらない3%、わからない3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度とほぼ同じで高評価をいただいている。送迎時や連絡帳、個別懇談などで児童生徒の様子を丁寧に伝え、信頼関係の構築ができています。 ・「支援センターだより」や生活サポート相談、電話相談などで保護者に寄り添い、相談窓口を明確にしてきたことがよかった。 <p>10：あてはまる89%、あてはまらない3%、わからない7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターから懇談前に、懇談時に個別の教育支援計画の確認や修正を毎回呼びかけているが、保護者に確認ができていないクラスがあり、昨年度より評価が少し低くなっている。また、学校で実施している関係機関との連携や支援を保護者に上手く伝えられていないこともある。 |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」の記入や活用を見直し、職員の共通理解を図り、支援の充実や関係諸機関に支援を確実に引き継ぐ。 ・幼保小中高等学校や地域の関係諸機関に相談支援・訪問支援・研修支援を周知し、センター的機能を充実させる。 |
| 重点目標を達成するための校内組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の担当者だけでなく、学部の支援センター員全員で個別の教育支援計画の作成や活用を確認する。 ・相談支援や訪問支援には、複数の支援センター員が担当できるようにする。 ・特別支援教育コーディネーターと学部コーディネーターの活用をする。 |
| 目標の達成に必要な具体的な取組 | <p>【校内支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を学部全員の支援センター員が担当できるように、支援センター内でマニュアルを作成し、共通の視点で確認する。 ・校内支援を充実させるために、生活サポート相談会の年3回の開催（必要時は、それ以外でも実施）や「支援センターだより」を発行する。 <p>【センター的機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援や訪問支援に、複数の支援センター員ができるだけ参加できるようにする。 |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの年度末のアンケートを実施。学校運営委員会での評価。 ・4市1町の幼保小中高等学校からの相談・訪問支援等のニーズに対して応えることができたか。 |
| 取組状況・実践内容等 | <p>【校内支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の作成について年度当初に学部会で記入の注意点や活用について呼びかけができた。また、懇談前に確認事項について係からお知らせし、支援センター全員で個別の記入について確認・助言をした。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当校の保護者支援として、「支援センターだより」や生活サポート相談会の年3回実施（必要時は、それ以外でも実施）できて、相談者から高評価をいただけ、継続して支援ができた。 ・ケース会議や支援会議を開催し、担当者や保護者の困り感に寄り添うことができた。 ・放課後等デイサービス事業所と連携し、児童生徒の支援ができた。 <p>【センター的機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中高等学校や地域の保護者や関係諸機関の相談支援、訪問支援、公開研修、学校見学の案内ができた。 ・「ぎふもとすコネクション」を発行して、発達障がいのある児童生徒の支援方法や書籍・サポート支援具の紹介など、センター的機能の充実ができた。 ・4年ぶりにコロナ禍で実施できなかった地域の未就園児のわくわく親子教室を年5回実施できた。 |
| 評価の視点 | 評価 |
| <p>① 個別の教育支援計画の作成・活用を職員に周知し、保護者の合意を得て活用することができたか。</p> <p>② 地域の幼保小中高等学校や関係諸機関におけるセンター的機能を果たすことができたか。</p> <p>③ 保護者支援として、相談会や支援センターだよりを発行して、校内支援の充実を図ることができたか。</p> | <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> |
| 成果・課題 | 総合評価 |
| <p>○個別の教育支援計画の記入方法や活用について呼びかけ、関係諸機関との連携を図ることができた。</p> <p>○センター的機能の活用を支援センターだよりや連携協議会、学校見学などでわかりやすく伝えることができた。</p> <p>○わくわく親子教室を開催し、未就園児とその保護者の支援ができた。</p> <p>▲来年度より個別の教育支援計画が新様式になるため、支援や目標がより明確になるようにする。</p> <p>▲幼保小中高等学校からの訪問支援・相談支援に複数で対応できるようにする。</p> | A (B) C D |
| 来年度に向けての改善方策案 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の新様式で、教育的支援と福祉、医療との連携や目標がより明確になるようにし、年度途中の見直しができるようにする。 ・外部からの訪問支援・相談支援に複数で対応できるようにし、各学部に協力の依頼をする。 |

学校関係者評価（令和6年2月27日実施）

| |
|--|
| <p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターと市役所の連携、事案対応、その後のケース会議の開催といった迅速・緊密な関係づくりが大変すばらしい。 ・保育園等には統合保育が進まない地域もあるため、センター的機能にて指導してほしい。 ・自己評価の分析がよくなされている。 |
|--|